

平成29年度 第6回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：「中高生も活躍！中山間地域をみんなで活性化」
- 2 日時：平成29年12月26日（火）
- 3 場所：岡山県生涯学習センター会議室（岡山市北区伊島町3-1-1）
- 4 参加者：中山間地域で、地域課題の解決に取り組んでいる中高生、一緒に取り組んでいる行政等の関係者や地域住民の方：9名

5 知事挨拶

本日は、中高生から見た、地域の良さや課題、活動に参画して感じたこと。大人の視点から、中高生が取り組むことでどんな効果があるか。そして、どういった地域をめざしているかなど、お話を伺い、今後の県政を進める参考にさせていただきたい。

6 発言内容

【各地域の取組について】

（赤磐市）

- ・「中高生が主役！赤磐市を若者の力で元気にしようプロジェクト」を実施している。地元中高生が、お祭り等のイベントに参画して盛り上げるとともに、地域住民と接しながら「乗降者の減少によりバスの便が少なくなり不便」、「近くにお店がなく車に乗らないお年寄りには買い物が不便」等の地域課題を把握し、解決方法について検討している。
- ・お年寄りから「盆踊りが無くなって寂しい」との声を聞き、地域の盆踊りを高陽中学校の生徒と卒業生が主体となって、地域団体や地域住民とともに12年ぶりに復活させた。盆踊りの習得、ポスターの作成、屋台に出す料理、櫓や提灯などの会場設営等を行い、当日は約千人もの参加があった。

（矢掛町）

- ・山田地区の中高生ボランティア（YMD隊）約20人が、盆踊り大会や文化祭等、地区を盛り上げるための活動しており、今回、山田小学校で採れた茶葉を使ったお菓子の開発に取り組んだ。地区のキャラクターを活用したクッキーやどら焼きなどを作り、商品名やパッケージ等も中高生で考え、朝市で販売した。

（久米南町）

- ・久米南町では、町内在住20代～30代の若者組織「久米南町新生隊」が、4年前から「おばけ屋敷」を開催しており、3年前から中高生がボランティアで参加している。今年度は中高生ボランティアが「U（アンダー）-18久米南町新生隊」を結成し、NPO・地域団体と連携しながら、主体的に企画・運営に取り組んだ。
- ・中学生の頃は当たり前のように参加していたが、町外の高校に行ったこともあり、町の人との関わりが薄くなった。おばけ屋敷に参加して、改めて、町民のやさしさや温かさに触れ、久米南町はすごくいい所だと再確認した。

【地域の現状や地域活動】

（赤磐市）

- ・交通の便が悪く、お年寄りが買い物や病院に行くのに困っている地域もある。地域のお祭りなどのイベントは、各イベントの認知度によって参加者数にばらつきがある。
- ・昨年度から公民館まつり等に中高生がボランティアとして参加し、主体的に取り組んでいる。地域住民からは、「中学生から活気をもらった」「次回もぜひ参画してほしい」といった声も上がっている。中高生の発想は豊かで、アイデアも豊富。自分たちが企画したことを、何度も練習して実現させた。
- ・中学生が町おこしのために盆踊りを復活させると聞いて、自分は、この企画に全面的に協力しようと思った。大人は、前例とか条例・規則といった観点で考えるが、この企画を理解し、支援してくれた赤磐市には感謝している。
- ・子どもたちに櫓を組ませたが、しっかり最後までやり遂げた。子どもたちにとって、こういった経験は自信につながり、長い人生の中でプラスになる。これからは、物事を決めるときに、大人の都合だけで決めるのではなく、これからを担う子どもの意見を聞きながら考えていくべきだと感じた。

(矢掛町)

- ・矢掛町の良さは、町全体で町を盛り上げようとしているところだと思う。矢掛中学生の3分の2以上がボランティアに参加し、矢掛高校生は矢掛学を通して地域活動に熱心に取り組んでいる。地域の大人たちは中高生の取組を支援してくれている。今後の課題は、中高生が矢掛町の良さをしっかり理解することだ。身近にありすぎて忘れがちなものの良さを思い出し、PRしていくことが必要であり、活動を継続していくために、次の世代へつなげていくことが大切である。
- ・中高生が地域活動に参画することで、幅広い世代の交流が図られるようになった。山田地区では、公民館や地域活動の参加は、小学生までの子どもと高齢者がほとんどだったが、中高生が参画することで、今まで抜けていた世代が入るようになった。また、大人の意識にも変化がみられ、大人が地域行事に積極的に参加するようになった。

(久米南町)

- ・久米南町は人口が減少し、高齢化が進んでいるので、小学校の登下校の見守り隊等の継続が不安である。おばけ屋敷のボランティアに参加して、町内の方だけでなく、県外の方からも喜んでもらえて良かった。
- ・中高生の地域活動への参画の効果として、町民から応援してもらえ、地域の一体感が生まれている。20～30代の若者世代の「次の世代に伝えたい」という思いが強くなっており、「久米南町新生隊」ら若者世代が中高生を引っ張り、リーダーシップをとることで成長できた。おばけ屋敷は今年で4回目となり、中学生の頃から参加している高校生もいる。こういった人たちに、いずれは新生隊に入ってもらいたい。

【今後の地域づくりへの展望】

(赤磐市)

- ・地域みんなが、楽しいと感じることをしたい。私たち中高生が、高齢者の方と直接会って話をするような、温かみのある地域にしたい。

- ・赤磐市の各地域で若者や青年団が活動している行事は、昔からあるが、現代において青年団の役割を担うのは、中高生である。中高生が活躍できるポジションを確保し、地域の活性化と中高生の郷土愛の醸成を推進していきたい。
- ・赤磐市も高齢化が進んでいる。若者に地域活動へ積極的に参加してもらい、地域に愛着を持ってもらうことが大切である。35年前の山陽地区には、地域行事がなかったが、祭りと年末の夜警を始め、それは今でも続いている。子どもにとって、夜警で地域の大人と一緒に歩いた思い出が、地域への愛着につながっている。
(矢掛町)

- ・ボランティアを通して、地域の方との交流はとても楽しいものであると知ったので、それをもっと他の中高生にも知ってもらいたい。現在行っている取組をさらに広げて、最終的には矢掛町の観光客を増やし、大好きな矢掛町をもっと元気にしていきたい。
- ・大学等で地域を離れて、山田地区へ戻って何かしたいと思った若者に対して、何か手助けができるような地域にしたい。公民館は地域の拠点ではあるが、地域が盛り上がるために公民館が決めたことを行うのではなく、地域住民がやりたいことがあれば提案してもらい、そのサポートを当たり前に行える地域でありたい。
- ・山田地区の温かさや山田小学校の魅力度は高いと思っている。今後も山田小を残して行ってほしいし、山田の良さを引き継いで、山田地区から離れた若者がゆくゆくは山田に戻ってきたいと思ってもらえるような地域にしたい。
- ・古い見方を変えていくことは必要であり、矢掛町もそのような形に変わっている。アイデアは人と話をしていく中で生まれてくるものであり、新しい発想は若者がもっている。これからも、そういったものが広がっていき、矢掛町で楽しめることを考えていけばよい。

(久米南町)

- ・久米南町では、自分のように町外の高校に通っている人が多く、地域との関わりがなくなるので、高校生にもっと地域のボランティアに参加してほしい。おばけ屋敷も人数が多い方が盛り上がるので、高校生の参加によりさらに活性化させたい。
- ・久米南町は高齢化が進んでいるが、子ども向けのおばけ屋敷を若者が全面的に出して実施し、盛り上がっており、「楽しいイメージ」の地域にしていきたい
- ・若い世代が生き活きとして、楽しんで地域活動を行ってほしい。町外や県外に出る人が多いが、おばけ屋敷が、町民にとって人とのつながりの場になればよい。久米南町から離れても、帰ってくる機会になってほしい。

【行政に対する要望や提案等】

- ・若者の実行力はすばらしい。各自治体や大人たちが、地域活動へ若者が積極的に参加できるような雰囲気作りをしていくことが必要である。固定概念や行政の枠組みを取り除いて、若者の視点を大切にしてほしい。
- ・中山間地域以外の地域でも「中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業」をやしてほしい。
- ・地元の小中学生が、その地域の一人暮らしのお年寄りに手紙を届けるような取組を試してみてもどうか。

- ・役場の人と意見交換したい。これまで地域活動を支援してもらうことはあったが、直接会って話をする機会はあまりない。中高生と役場の方が意見交換をすることで、よりよい案が生まれ、地域活動がさらに良いものとなる。
- ・県内の各地区で行われている取組が、単体ではなく他地区の取組等とつながっていくことができれば、さらに充実したものになるのではないか。
- ・生き活きトークの出席者は大人が多いようだが、今回のように子どもたちが知事と接する機会をいただけたらありがたい。子どもたちにとっても自信につながる。
- ・中高生が活躍している地域はとても活気があるが、子どもが減ってきており、今後、学校の存続が心配である。地域において学校がなくなることで、失われていくものはとても多い。学校の再編については、そういったことも考慮してほしい。
- ・私は都市部から来たが、岡山県は、地域と行政の距離が身近だと感じている。今後もこのような形で取組を続けていければと思っている。
- ・お化け屋敷のようなユーモアのある生涯学習の取組を、さらに推進できるような行政の体制ができたらよい。

7 知事まとめ

- ・社会に出ると異年齢の人と、いかにうまくコミュニケーションがとれるかが大切になってくる。中高生にとって、今、取り組んでいる地域活動は、これからの人生の上で非常に大事な経験となり、社会に出た時、自身のプラスになる。また、地域にとっても、中高生の地域活動への参画はたくさんのヒントが得られ、大事な第一歩となっている。
- ・地域づくりや地域おこしを考える時、いかに強みを生かすか、弱みをいかにカバーしていくか、弱みを逆手にとることはできないか、それぞれ各地域の特性に合わせて作戦を考え、若者をバックアップし、いろいろなやり方でそれぞれの地域を盛り上げていただきたい。